ずっと変わらぬ やさしさを。
牛乳石鹸

お風呂川柳2023 結果発表

金賞 1名

「ママ」が溶け 「わたし」に戻る 我が家の湯

けんちゃん

【評】ママであるわたし、妻であるわたし、嫁であるわたし、忙しい時間の中で見失いそうになる本当のわたし。
家のお風呂に浸かって目を閉じると、そんな柵から解放されたような気持ちになる。
我が家でなければ取り戻すことができない自分という存在を身体で感じているのだろう。 入浴とは身体を清潔にすること以上に、自分と向き合う時間を確保すること。
お風呂から上がるともっと素敵なママの出来上がりだ。

銀賞 3名

銀賞

スマホ首　風呂でようやく　上を向く

万年首凝り

【評】現代病だと言える「スマホ首」。あの小さな画面は自分だけの宇宙であり、それは体の一部分のようだ。本物の宇宙はスマホの中にないことを、お風呂でようやく気付くのだろう。

銀賞

頑張った　私を風呂で　おもてなし

ベンジャミン

【評】「頑張った」と言い切ることのできる疲れを抱いて、ゆっくりと自分を労わる。自分へのおもてなしは、どこまでも豊かな気持ちにさせてくれるものだ。また明日も頑張ろうと思える。

WINNER
銀賞
SILVER

母を脱ぎ　妻を脱ぎ捨て　入る風呂

松田少納言

【評】服を脱いでお風呂に入るという当たり前が、
当たり前ではないのだと感じる。「母」「妻」以外にも
脱ぎ捨てるものがもっとあるはず。
勢いのある句に、一緒に流されるのも悪くない。

銅 賞　5名

WINNER
銅賞
BRONZE

鼻歌も　涙の跡も　知るお風呂

すみれ

【評】お湯につかったとたんに涙が溢れたことがある。
泣いたって現実はなにも変わらないけれど、
心は少しだけ軽くなった。
お風呂の湯気が、緩んだ気持ちを優しく隠してくれる。

WINNER
銅賞
BRONZE

湯船では　ご機嫌らしい　反抗期

凛香

【評】お風呂場から聞こえてくる鼻歌に、反抗期の不思議を思う。
その機嫌で接してくれればいいのに、
わざわざ反抗的な態度をとってくるのは、大人の階段を
上っている証拠だと分かってはいるのだが。

WINNER
銅賞
BRONZE

悩んだら　風呂に行くのが　マイルール

きらりん

【評】マイルールという便利な言葉がいい。
自分で作ったルールに従って行動することで本来の自分に
戻れるのかは分からないが、スタート地点に立つには
お風呂は最適なのかもしれない。

WINNER
銅賞
BRONZE

湯のチカラ　借りて自分を　立て直す

ちゅんすけ

【評】温泉に行くと糖尿病や痛風など効能が書かれた紙を目にする。「自分を立て直す」効能があるのはやっぱり家のお風呂。「チカラ」というカタカナ表記は、自分にしか効かない成分を意味するのだろう。

WINNER
銅賞
BRONZE

あふれる湯　ぼくも大きく　なりました

まだまだ子ども

【評】湯舟につかってあふれるお湯の音を聞きながら、一緒に入った家族のことを思い出す。口語体での報告によって、育ててくれた親への感謝がよりいっそう強く伝わってくる。

1126（いいふろ）賞　10名

ひらめきは　仕事場よりも　お風呂場で

働くシャチ

【評】気持ちを切り替える場所として、お風呂場は最適だ。
パソコンの前では思いつかなかったことが、
お湯につかったとたんキラリとひらめく。
これで明日の会議も大成功間違いなしだ。

湯に浸かり　ハヒフヘホッと　息を吐く

ほり・たく

【評】歓喜の吐息を表現するには「ハヒフヘホッ」がしっくりくる。
他の言葉を当てはめて考えてみたが、やっぱりコレでなくては
物足りない。この脱力感がたまらなく好きだ。

二番風呂　鏡に伝言　「ありがとう」

くみ

【評】一番風呂から届いたメッセージが微笑ましい。
感謝を伝える手段はいくつもあるが、言葉の持つ魔法が
最大限に生かされるのが文字にすることだ。
「こちらこそありがとう」と素直に書けるだろうか。

初孫を　湯舟に浮かせ　百面相

ダイコー

【評】孫を笑わせようと必死になっているおじいちゃん。
いつもは頑固で、家族の前でもなかなか笑わないくせに、
孫を抱いたとたんに目尻は下がりっぱなし。
心まで温めてくれるのがお風呂だと実感する。

チビ石鹸　ママ石鹸に　おんぶされ

新ちゃん

【評】我が家では当たり前の光景を切り取ってみると、
小さな物語はどこにでも存在しているのだと気付く。
物を大切にする心は、こうやって育まれていくのだろう。

恋バナが　姉妹の風呂を　長くする

おとちゃん

【評】喧嘩したり仲直りしたりしながら大きくなった姉妹。
ただでさえ長風呂の二人が一緒に入ると最強だ。
現在進行形の恋バナが弾むお風呂で、
お互いの恋愛観を語り合いながら夜は更けてゆく。

湯に浸かり　一糸まとわぬ　女子トーク

にょにょにょ

【評】女子トークのえげつなさは、とても男子に聞かせられるものではない。そこがお風呂ならば尚更である。「一糸まとわぬ」に、女子の恐ろしさが垣間見えるのは私だけではないだろう。

柚子一個　風呂に浮かんで　知る冬至

無頓着

【評】「一個」が、なんともいえない雰囲気を漂わせている。柚を入れてくれた母の気持ちを感じながら、季節の節目を全身で感じる。柚の優しい香りが、健康であることの意味を教えてくれるようだ。

湧いたよの　声と二人で　暮らしてる

木立慈雨

【評】昔は子ども達がいてお風呂の順番もあって騒がしい日々だったのに、今ではその騒がしさを恋しく思う。繰り返される日々の会話に、この平穏な時間がずっと続けばいいと願ってやまない。

長寿国　持続可能に　するお風呂

まあちゃん

【評】サステナブルも聞き慣れた言葉になってきた。
少子高齢化の問題も、まずは当事者である自覚が必要だろう。
ゆっくりお風呂に浸かって、健康で長生きを目指したいものだ。

全体評　真島久美子 先生

体を清潔に保ち、疲れを癒すだけではないお風呂の
存在を強く意識しながらの選になりました。
お風呂と切り離せない家族の存在と、そこに流れる
時間の中で、少しずつ成長していくのは
子ども達だけではありません。入浴できる幸せの中で、
この文化を守っていきたいですね。

Copyright© 2023 牛乳石鹸共進社株式会社All Rights Reserved.